



# まがたま

一人一人が輝く学校・地域と共に歩む学校

令和4年3月1日

豊玉中学校便り 特別号

E-mail arai.hideki@nerima-tky.ed.jp

URL <http://www.toyotamajr.nerima-tky.ed.jp>

## 教育調査 結果のご報告

日差しもだんだんと暖かみを帯びてまいりました。

さて、令和3年度学校経営計画の具体的方策に基づき、生徒と保護者の皆様及び教職員の教育評価調査結果をご報告いたします。

質問番号

対象	質問項目	評価
----	------	----

評価は、教育調査の平均値で、最高値5.0、最低値1.0、到達目標は4.0です。3.5未満を重要課題と考えます。生徒欄のみ1年・2年・3年の順で数値を表記します。

とてもそう思う	5	どちらかといえばそう思う	4
どちらかといえばそう思わない	2	そう思わない	1

教育調査回収率

生徒	1年	2年	3年	保護者	教員
	93%	81%	88%	40%	100%

**方策1：**授業規律の徹底と、ピア・サポートを全校体制で行い、生徒のリレーションづくりを進める。

質問1

		7	12
生徒	先生たちは、ピア・サポートプログラム等によって授業内での望ましい人間関係づくりを行い、生徒が授業中に誰とも協力して学ぶことができるようにしている。	4.3	4.3
		4.6	4.6
		4.1	4.0
保護者	学校は、授業内での望ましい人間関係づくりを行い、お子様が授業中に誰とも協力して学ぶことができるようにしている。	4.2	4.2
教員	学校は、ピア・サポートプログラム等によって授業内での望ましい人間関係づくりを行い、生徒が授業中に誰とも協力して学ぶことができるようにしている。	4.6	4.6

**成果**

・学級の望ましい人間関係が作り上げられ、誰とも協力して学ぶことができた。

**課題**

・ピア・サポートプログラムの開始時期が、学年によって異なった。

**改善策**

・ピア・サポートプログラムの成果が、最も期待される年度当初に、全校体制で確実に実施する。



**方策2：**学力向上プロジェクトの確立・検証期と位置付け、4人組を軸にした豊中スタンダードを確立する。

質問2

		7	12
生徒	先生たちは、4人組学習活動を中心に、4人の役割を明確にしたり、発表する順番を決めたりして、少人数グループ活動を工夫している。	4.5	4.5
		4.8	4.8
		4.4	4.4
保護者	学校は、4人組学習活動を中心に、4人の役割を明確にしたり、発表する順番を決めたりして、少人数グループ活動を工夫している。	4.4	4.3
教員	学校は、4人組学習活動を中心に、4人の役割を明確にしたり、発表する順番を決めたりして、少人数グループ活動を工夫している。	4.9	4.8

**成果**

・「4人組」チーム学習が、豊玉中学校のスタンダードとなり、対話を中心とする言語活動が充実した。

**課題**

・「4人組」活動が目的になり、対話が行えていない場面も見られた。

**改善策**

・思考ツールを活用して考えを整理させ、対話の手法を指導し、言語活動を充実させる。

**方策3：**課題解決を中心にした授業改善を通して、自己表現力、プレゼンテーション能力の伸長を図る。

質問3

		7	12
生徒	あなたは、4人組学習活動等を通して、自分の考えを発表する力や、学習したことを説明する力が身に付いている。	3.9	4.0
		4.1	4.3
		4.0	4.0
保護者	お子様には、4人組学習活動等を通して、自分の考えを発表する力や、学習したことを説明する力が身に付いてきている。	4.0	4.0
教員	生徒たちには、4人組学習活動等を通して、自分の考えを発表する力や、学習したことを説明する力が身に付いている。	4.3	4.2

**成果**

・課題解決型学習の成果を、チームで発表する経験を通して、多くの生徒の自己表現力が向上した。

**課題**

・チーム発表では、発表を苦手とする生徒に活躍の場を与えることは十分にできなかった。

**改善策**

・自分の意見をまとめる時間を与え、全ての生徒が自分の考えを発表できるようにする。

**方策4：**各教科で、家庭学習の習慣を身に付けさせるための働きかけや支援を行う。

**質問4**

		7	12
生徒	先生は、次の授業で学ぶことや何を準備してくればよいかを教えてくれるので、あなたは、次の授業のために家で勉強することができる。	3.5 3.7 3.6	3.4 3.8 3.4
保護者	学校は、次の授業で学ぶことや、何を準備してくればよいかを教えているので、お子様は、次の授業のために家庭で勉強をしている。	3.3	3.2
教員	あなたは生徒に、次の授業で学ぶことや何を準備してくればよいかを教えているので、生徒は次の授業のために家で勉強してくる。	2.6	2.6

**成果**

- ・次に学ぶことを伝えた教科では、次の授業で全ての生徒が力を身に付け、発展的な学習に意欲的に参加した。

**課題**

- ・強制的な宿題を出すことが、生徒の主体性を引き出すことの妨げになっている。

**継続**

- ・全ての教科で、次の授業で学ぶことや何を準備してくればよいかを伝え、生徒の家庭学習に対する主体性を引き出す。



**方策5：**人に対する思いやりや礼儀、他者との違いを理解し、認め合いながら生きる生徒を育てる。

**質問5**

		7	12
生徒	先生たちは、人に対する思いやりや礼儀、他者との違いを理解し、認め合いながら生きることの大切さを教えている。	4.3 4.5 3.9	4.3 4.2 3.8
保護者	学校はお子様に、人に対する思いやりや礼儀、他者との違いを理解し認め合いながら生きることの大切さを教えている。	4.1	4.0
教員	あなたは生徒に、人に対する思いやりや礼儀、他者との違いを理解し、認め合いながら生きることの大切さを教えている。	4.5	4.5

**成果**

- ・多くの生徒が、人に対する思いやりや礼儀、他者との違いを理解し認め合いながら学校生活を送れている。

**課題**

- ・教科書（読み物）教材の人物の心情に沿った展開だけでは、全ての生徒に道徳性を身に付けることができない。

**継続**

- ・道徳授業で、教科書教材の人物の心情に沿った展開だけでなく、討論型やロールプレイングなど体験的な授業を工夫する。



**方策6：**夢や志をもち、困難を乗り越え、幸福な人生の創り手となっていけるように支援を行う。

**質問6**

		7	12
生徒	先生たちは、目標や将来の夢をもつことの素晴らしさや、それに向かって挑戦することの大切さを教えている。	3.9 4.2 3.6	3.9 4.0 3.5
保護者	学校はお子様に、目標や将来の夢をもつことの素晴らしさや、それに向かって挑戦することの大切さを教えている。	4.1	3.9
教員	あなたは生徒に、目標や将来の夢をもつことの素晴らしさや、それに向かって挑戦することの大切さを教えている。	4.2	4.4

**成果**

- ・多くの生徒が、自分の長所を理解し、将来の夢に結び付けようと意識することができた。

**課題**

- ・全ての生徒が、自分が身に付けた力に自信をもち、自己肯定感を育むことができるように、教育活動を工夫する。

**改善策**

- ・2学年で実施し、成果の見られた「志教育」を全学年実施しに広げ、夢や志を立て、自己と向き合わせる取組を行う。

**方策7：**心の教育を活性化するために外部から講師を招き、「命の授業」を実施する。

**質問7**

		12
生徒	あなたは、命の授業（11月16日）を通して、戦争が終わっても苦勞しなくてはならなかった人のことや、命の大切さについて学ぶことができた。	4.7 4.7 4.4
保護者	お子様は、命の授業（11月16日）を通して、戦争が終わっても苦勞しなくてはならなかった人のことや、命の大切さについて学ぶことができた。	4.3
教員	生徒たちは、命の授業（11月14日）を通して、戦争は2度と起こしてはならないことや、人の命の大切さについて学ぶことができた。	4.6

**成果**

- ・生徒は、戦後の過酷な抑留生活の実体験を聞くことで、人と人とのふれあいの大切さや、命の大切さを学ぶことができた。
- ・シベリア抑留中の過酷な労働環境の中で、日本人同士が生き残るために、互いを思いやっていたことに感銘を受けた生徒が多かった。
- ・事前学習として、シベリア抑留に関する資料や展示物を見学したり、説明を受けたりすることができた。

**継続**

- ・講演内容の理解を深めるために、今後も事前学習を充実させ、道徳授業地区公開講座に講師を招聘し、戦争等の実体験に基づいた「命の授業」を実施する。

**方策8：規範意識や基本的な生活習慣を確立させる。**

質問8		7	12
生徒	先生たちは、生徒がルールを守ったり、基本的な生活習慣を身に付けたりするように指導している。	4.7	4.5
		4.6	4.5
		4.3	4.0
保護者	学校はお子様に、ルールを守ったり、基本的な生活習慣を身に付けたりするように指導している。	4.4	4.2
教員	あなたは生徒に、ルールを守ったり、基本的な生活習慣を身に付けたりするように指導している。	4.8	4.8

**成果**

- ・多くの生徒がルールを守り、基本的な生活習慣を身に付けている。また、学年が上がるにつれて、その割合が多くなっている。

**課題**

- ・学校のルールが守れている3年生には、さらに社会のルールについて考えさせる。

**継続**

- ・全ての教育活動を通して、社会生活の基本的な決まりや規範意識をもとに、適切に判断し行動する態度を身に付けさせる。



**方策9：薬物、防犯、防災、交通安全についての正しい知識を身に付けさせる。**

質問9		7	12
生徒	先生たちは、薬物乱用防止、防犯、防災、交通安全などの正しい知識を教えている。	4.5	4.6
		4.6	4.6
		4.5	4.3
保護者	学校はお子様に、薬物乱用防止、防犯、防災、交通安全などの正しい知識を教えている。	4.4	4.3
教員	学校は、薬物乱用防止、防犯、防災、交通安全などの正しい知識を教えている。	4.7	4.8

**成果**

- ・薬物乱用防止教室や情報モラル教室を実施したり、安全指導や避難訓練を実施し、多くの生徒が、薬物、防犯、防災、交通安全について正しい知識を身に付けている。
- ・火災時を想定したの避難訓練では、避難開始から4分以内で校庭に集合して人員点呼までを行えている。

**継続**

- ・今後も薬物、防犯、防災、交通安全について、生徒が正しい知識を身に付けられるように、安全指導を継続して行う。



**方策10：インターネットやSNSについての正しい知識を身に付けさせる。**

質問10		12
生徒	先生たちは、あなたがインターネットやSNSについての正しい知識を身に付けられるように、学活等で指導している。	4.5
		4.3
		3.8
保護者	学校は、お子様がインターネットやSNSについての正しい知識を身に付けられるように、指導している。	4.0
教員	学校は、生徒がインターネットやSNSについての正しい知識を身に付けられるように、指導している。	4.5

**成果**

- ・多くの生徒がインターネットやSNSについての正しい知識を身に付け、タブレット型PCを適切に使用している。

**課題**

- ・個人利用のスマートフォン等については、家庭との協働体制を確立して管理していく必要がある。

**改善策**

- ・学活で情報モラルに関して確認したり、家庭ルールの見直しをしたりする機会を設け、生徒自身のインターネットやSNSの使用法を確認させる。



**方策11：生活アンケートを毎月実施し、いじめの未然防止、早期発見、早期解消に努める。**

質問11		7	12
生徒	先生たちは、生活アンケート等を毎月行い、必要があれば相談できるため、安心して学校生活を送ることができる。	4.1	4.2
		4.4	4.4
		4.1	4.0
保護者	学校は、生活アンケート等を毎月行い、必要があれば生徒が相談できるため、お子様は、安心して学校生活を送ることができる。	4.2	4.1
教員	学校は、生活アンケート等を毎月行い、生徒は必要があれば相談できるため、安心して学校生活を送ることができる。	4.6	4.5

**成果**

- ・学校生活や学習における悩み、家庭生活での悩み等を相談できる環境をつくることが、「安心して通える学校づくり」につながっている。
- ・生徒と教員が相談する機会が増えたことで、生徒と教員相互の信頼関係を築くことができた。

**継続**

- ・生活アンケートを毎月継続して実施するとともに、アンケートを利用しなくても生徒が相談できるように、生徒と教員の信頼関係を築いていく。





方策 12：地域の人材を活用しながら、多様な職業や価値観、社会情勢の変化を理解させる。

質問 12		7	12
生徒	先生たちは、特別活動や総合的な学習の時間の学習活動を通して、働くことの意義や尊さを教えている。	4.0	4.1
		4.5	4.4
		3.7	3.4
保護者	学校は、特別活動や総合的な学習の時間の学習活動を通して、お子様に働くことの意義や尊さを教えている。	3.9	4.0
教員	学校は、特別活動や総合的な学習の時間の学習活動を通して、働くことの意義や尊さを教えている。	4.4	4.5

### 成果

- ・1学年は、地域の職業人をゲストティーチャーとして招聘して「豊中ハローワーク」を実施した。将来社会人として求められる知識と能力が明確になり、中学生としての生活を見直す機会とすることができた。
- ・2学年は、東京証券取引所と連携した起業家体験を行った。チームが開発した商品についてのプレゼンテーションでは、「会社の魅力」、「貢献度」、「熱意」を意識しながら発表することができた。

### 課題

- ・3学年は、一部の生徒が、面接練習を通して、自分の将来について考えただけであった。

### 改善策

- ・3学年は、「将来就きたい職業」をテーマに、進路学習でその職業に就くまでをシミュレーションさせる。
- ・大学生をゲストティーチャーとして招聘し、大学までの道筋や、卒業後の就職先についての考えを聞く。

方策 13：全校集会・朝礼・学年集会の講話を工夫し、人生観や生き方について考えを深めさせる。

質問 13		7	12
生徒	先生たちは、あなたが人生観や生き方について考えを深められるように、朝礼や学年集会で話しをしている。	4.2	4.1
		3.9	4.1
		3.8	3.6
保護者	学校は、お子様が人生観や生き方について考えを深められるように、朝礼や学年集会で話しをしている。	3.9	3.9
教員	生徒が人生観や生き方について考えを深められるように、朝礼や学年集会で話しをしている。	4.4	4.1

### 成果

- ・教師の話聞いて感銘を受け、行動を起こしている生徒が見られた。

### 課題

- ・学年集会での講話を、計画的に実施する。

### 継続

- ・これからも生徒の心に残る講話となるように内容を工夫して、全校集会・朝礼・学年集会で伝えていく。

方策 14：学校経営計画に基づき、温かい雰囲気の中で生徒が安心して生活できる学校をつくる。

質問 14		7	12
生徒	先生たちは、温かい雰囲気の中で、生徒が安心して生活できる居場所づくりに努めている。	4.3	4.3
		4.4	4.2
		4.0	3.8
保護者	学校は、温かい雰囲気の中で、お子様が安心して生活できる居場所づくりに努めている。	4.2	4.2
教員	学校は、温かい雰囲気の中で、生徒が安心して生活できる居場所づくりに努めている。	4.8	4.8

### 成果

- ・ピア・サポートプログラムの活用で、学級のリレーションづくりが進み、温かい雰囲気をつくることができた。
- ・ピア・サポーターが、弱い立場の生徒を守ろうとすることにより、学校生活に不安を感じる生徒が減少した。

### 継続

- ・ピア・サポートプログラムを、全校体制で確実に実施する。
- ・全ての生徒が互いの違いを認めつつ、個人として尊重されるように学級のリレーションづくりを推進し、意欲的に学校生活を送れるようにする。

### 改善策

- ・弱い立場の生徒をつくらないために、問題解決的な道徳授業や、ロールプレイングを活用した道徳授業を実践し道徳性を育む。



方策 15：小学校や地域との連携が行えないコロナ禍の中で、校内に目を向け学校のために活動する。

質問 15		7	12
生徒	生徒会役員や各種委員は、学校を良くするための活動にしっかりと取り組んでいる。	4.6	4.6
		4.6	4.7
		3.9	3.5
保護者	生徒会役員や各種委員は、学校を良くするための活動にしっかりと取り組んでいる。	4.4	4.3
教員	生徒会役員や各種委員は、学校を良くするための活動にしっかりと取り組んでいる。	4.4	4.5

### 成果

- ・コロナ禍の様々な制限がある中、生徒会役員を中心に、責任をもって委員会活動に取り組むことができた。

### 継続

- ・生徒会役員が中心となって、各委員会や部活動部長会と協力して、挨拶運動や校内に目を向けた活動に取り組む。

方策 16：生徒の健康上の課題や配慮事項を掌握し、情報の共有化と全教職員との共通理解を図る。

質問 16		7	12
生徒	先生たちは、健康に過ごすことの大切さや、体力を向上させる方法について教えている。	4.5 4.5 4.1	4.4 4.1 3.9
保護者	学校はお子様に、健康に過ごすことの大切さや、体力を向上させる方法について教えている。	4.3	4.0
教員	学校は、健康に過ごすことの大切さや、体力を向上させる方法について教えている。	4.7	4.4

### 成果

- ・コロナウイルス感染拡大の予防策として、日頃からの手洗いと消毒、換気などが行えており、多くの生徒の感染症への予防意識が高い。

### 課題

- ・日常的に体を動かす機会が少なくなり、体力の低下もつながっている。

### 継続

- ・昼休みなども利用し、体を動かせるようにする。また、教員と生徒の信頼関係を大切にし、声かけや一緒に話す時間を意識して作る。

### 改善策

- ・家でもできる運動などを伝えて取組めるようにする。困ったことを相談しやすい関係を作れるよう、日常的に声かけを行う。個別に相談に対応する。



方策 17：コロナ禍の中、限られた条件の中で、行事に真剣に取り組む達成感を得る。

### 質問 17

生徒	あなたは、運動会に真剣に取り組む、達成感を得ることができた。	4.3 4.6 4.3
保護者	お子様は、運動会に真剣に取り組む、達成感を得ることができた。	4.4
教員	生徒たちは、運動会に真剣に取り組む、達成感を得ることができた。	4.8

### 成果

- ・競技に意欲的に参加し、真剣に取り組むことができた。
- ・異学年の生徒の頑張る姿に、全校生徒が応援のエールを送ることができた。

### 継続

- ・生徒が主体的に取り組めるような種目を、生徒アイデアを基に考えていくことにより、意欲の向上を図る。
- ・運動会のダンス練習を通して、異学年での教え合い学習を深め、さらに全校生徒と一緒に踊る楽しさや気持ちを、一つに合わせる達成感を味わわせる。

## 豊中プラン2021の成果

### 1 学力向上プロジェクト

- 3年 全国学力・学習状況調査では、平均正答率が、  
国語 全国平均を **5.4%** 上回った。  
数学 全国平均を **2.8%** 上回った。
- 自分には良いところがあると答えた生徒は、全国平均を **13.6%** 上回った。
- 自分と違う意見について考えることが楽しいと答えた生徒は、全国平均を **7.4%** 上回った。
- 将来の夢や目標をもってしていると答えた生徒は、全国平均を **2.5%** 上回った。

### 2 キャリア教育の改善

- 2年「起業家体験プログラム」  
目標「SDGsの課題解決に貢献する」  
使命「各チームで商品を開発し、目標個数を販売する」  
仲間と協働してプロジェクトに取り組む経験を通じて、ゴール設定の大切さや見通しをもつことなど、学びの主体者として求められる資質・能力の育成につなげることができた。
- 全校で取り組んだ「夢手帳」  
夢手帳への記入が習慣化した生徒は、生活全般にわたるプランニング力やマネジメント力の向上につながっている。

### 3 学校行事で身に付ける力の見直し

- 中学校3年間で身に付けさせたい力を明確にして、適切な時期やふさわしい内容に転換する。

1年	練馬発見：自分の興味・関心を広げ深める力
2年	職場体験：自分の価値・生き方を表現する力
3年	修学旅行：自分の価値・生き方を進路につなげる力

### 4 地域ボランティア活動の拡充

- ボランティア年間登録制度「ボラバンク」  
コロナ禍で様々な制限のある中で、自分たちができるボランティア活動を実施した。  
豊玉南小学校60周年記念イベント「おひさまフェスティバル」に、お手伝いとして参加した。  
地域の福祉施設に、折り紙細工とメッセージカードを贈った。

### 5 命の授業の継続実施

- 道徳授業地区公開講座「命の授業」  
テーマ「命の授業 ～戦争体験の語り～」  
講師 全国強制抑留者協会理事長 林 英夫 先生  
事前学習として、抑留者が着ていた防寒着などの展示会を校内で実施し、クラスごとに説明を受けた。  
当日、生徒からは、たくさんの質問が挙がっていた。